

## 病院外来部分のピクトグラムの改善事例

合 田 喜 賢\*<sup>1</sup>

### 要 約

病院外来部におけるピクトグラムの改善提案の経緯について、ケーススタディの1例として報告した。ピクトグラムは、視認性の良い青地（C：87%，M：52%）に図案，文字を白抜きとした。現地調査を実施し，設置位置を基準よりやや小さめの250mm，設置高1150mmとした。カッティングシート，マグネットを使用し，病院の築年数や予算に合わせ，変化に対応したフレキシブルさを重視した。

#### 1. はじめに

筆者の所属する川崎医療福祉大学医療福祉デザイン学科では，A病院（国民健康保険直営診療施設，60床）より依頼を受け，デザインの改善提案を行った。その主なものは，利用者の誘導，識別，指示のためのサイン計画であったが，病院におけるサイン計画の指針は数少なく<sup>1)</sup>，さらなる事例の蓄積と検証が必要である。また，病院におけるサイン計画について，実際の病院においてデザイン提案を行った例<sup>2)</sup>や，デザイン，看護，医療，福祉の専門家が横断的に関わって実施した例<sup>3)</sup>はあるが，実施案を示すにとどまっておき，当初案と採用案を例示して，実施に至るまでの経緯を著すことは，今後の検証にとって有益なことであると考えた。

以上を踏まえ，本稿では，特にピクトグラム（絵文字）によるサインの改善提案の経緯について，ケーススタディの1例として報告する。

#### 2. 調査対象について

対象の病院は，国民健康保険直営診療施設である。病床数は60床，診療科目13を有する救急告示病院である。

現状調査は，2017（平成29）年2月6日行った。調査の内容は，写真記録，アイカメラによる動画の撮影を行うとともに，各自で問題点を精査し，記録した。また，必要な図面および寸法を採取した。

過疎地域にあって，人口減少・高齢化が進むなか

の中小病院であることから，建築後38年経過するが，建替えは困難である。老朽化が進む建物に高齢者にとって使い勝手が良く，安全性が確保される提案，特にピクトグラムの改善が求められた。

#### 3. 現状の問題点について

院内の現状調査を行い，ピクトグラムに関して判明した問題点を図1に示す。

階段は奥まった位置にあったが，ピクトグラムは存在せず，不案内と思われた（①）。

公衆電話・自動販売機の案内表示には，文字と矢印の簡単な貼り紙が使用されているのみであった（②）。

手術室・CT室への案内表示は，廊下の突き当りなどに吊るし看板があるが，見上げる必要があり，気付きにくいと思われた。また，白地のプラスチック板にオレンジ色で文字が記されており読みづらい。そのうえ，素材にプラスチックを使用しており，蛍光灯の明かりが反射するため読みづらさに拍車がかかっていた（③）。

トイレに関しては，ピクトグラムは使用されていたものの2種類あった。文字のみの表示もあり，統一されていなかった（④）。

1994（平成6）年に3階の増築，2006（平成18）年に外来・病棟の改修があったが，こうした際には，ピクトグラムをはじめ，院内の案内表示に関する配慮はなかったようで，全体的に統一感は見られな

\*1 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療福祉デザイン学科  
（連絡先）合田喜賢 〒701-0193 倉敷市松島288 川崎医療福祉大学  
E-mail : goda.y@mw.kawasaki-m.ac.jp



図1 現状の問題点

かった。

#### 4. ピクトグラムの改善提案（図2）

##### 4.1 当初案

上記の問題点を踏まえて、1階外来部分については3点、トイレについては2点のピクトグラムを制作した。

##### 4.1.1 外来部分のピクトグラムについて

A案は、青色のベタ塗りに図案と文字を白抜きとするデザインとした。図案のベースには、人物は入れずに機器を中心とした。

B案は、地の色を白として青色の図案を枠線で囲み、下部に青地に白抜きの文字を配置するデザインとした。図案のベースは、Aと同様に人は入れずに機器を中心とした。

C案は、A案と同様に、青色のベタ塗りに図案と文字を白抜きにしたものであるが、図案のベースは、機器だけでなく人の行動を表しているものとした。

##### 4.1.2 トイレのピクトグラムについて

図案のデザインは基本的に同じとした。第1案は、地の色を白として青色の図案を枠線で囲み、下部に文字を白抜きとした。B案と同様のコンセプトといえる。第2案は、青色のベタ塗りに図案と文字を白抜きとした。A・C案と同様のコンセプトといえる。なお、フォントはすべて中太のゴシック体を用いて、高齢者にも読みやすいよう配慮した。

##### 4.2 採用案

病院側との意見交換の結果、外来部分はC案を採用した。ただし、図案に関しては、高齢者が多いこともあり、複雑な図案にならないよう一部A案を採用するなど修正を加えた。トイレは第2案を採用した。ただし、バランスを考え、フォントは「Jun34Pro Medium」に変更した。

また、病院側からピンク色にしたいという要望があった。病院側に見本を提示した結果、明度差が小さく使用できないこと判断し、不採用となった。視認性の良い青（C：87%，M：52%）を使用した。

#### 5. 外来部分のピクトグラムの配置

院内外来部分に配置したピクトグラムを、平面図上にまとめたものが図3である。ピクトグラムの寸法は、西川<sup>4)</sup>を参照し、300mm角、床からの設置高は1200mmを基準にした。今回は、現地での設置、アイカメラでの見え方の検討を行った。大きさは250mm角で十分であると判断した。高齢者が多く視線をやや下げて、設置高1150mmとした。

素材として主に工夫して点は、カッティングシートを使用したことである。これはシール状になって

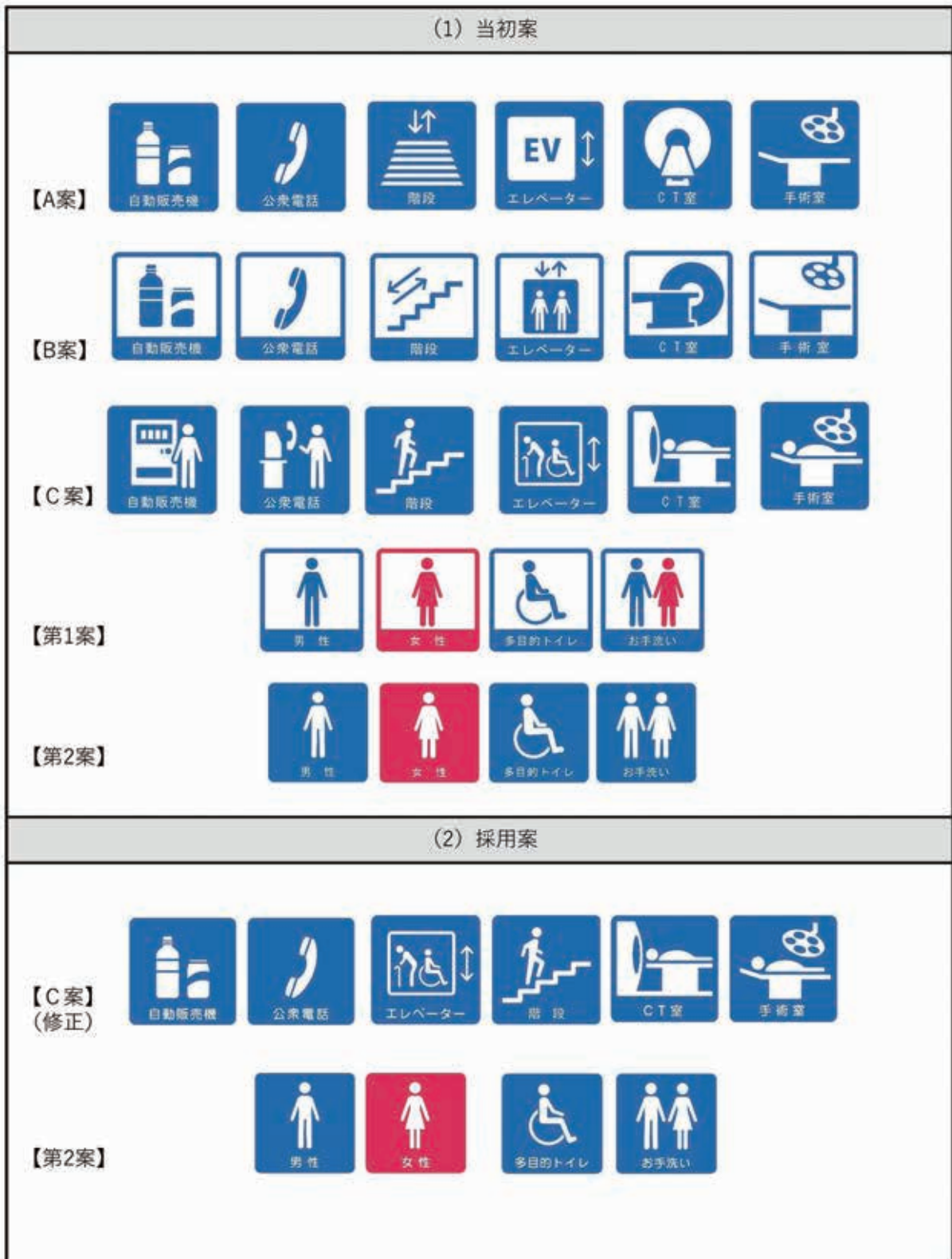


図2 ピクトグラムの改善提案

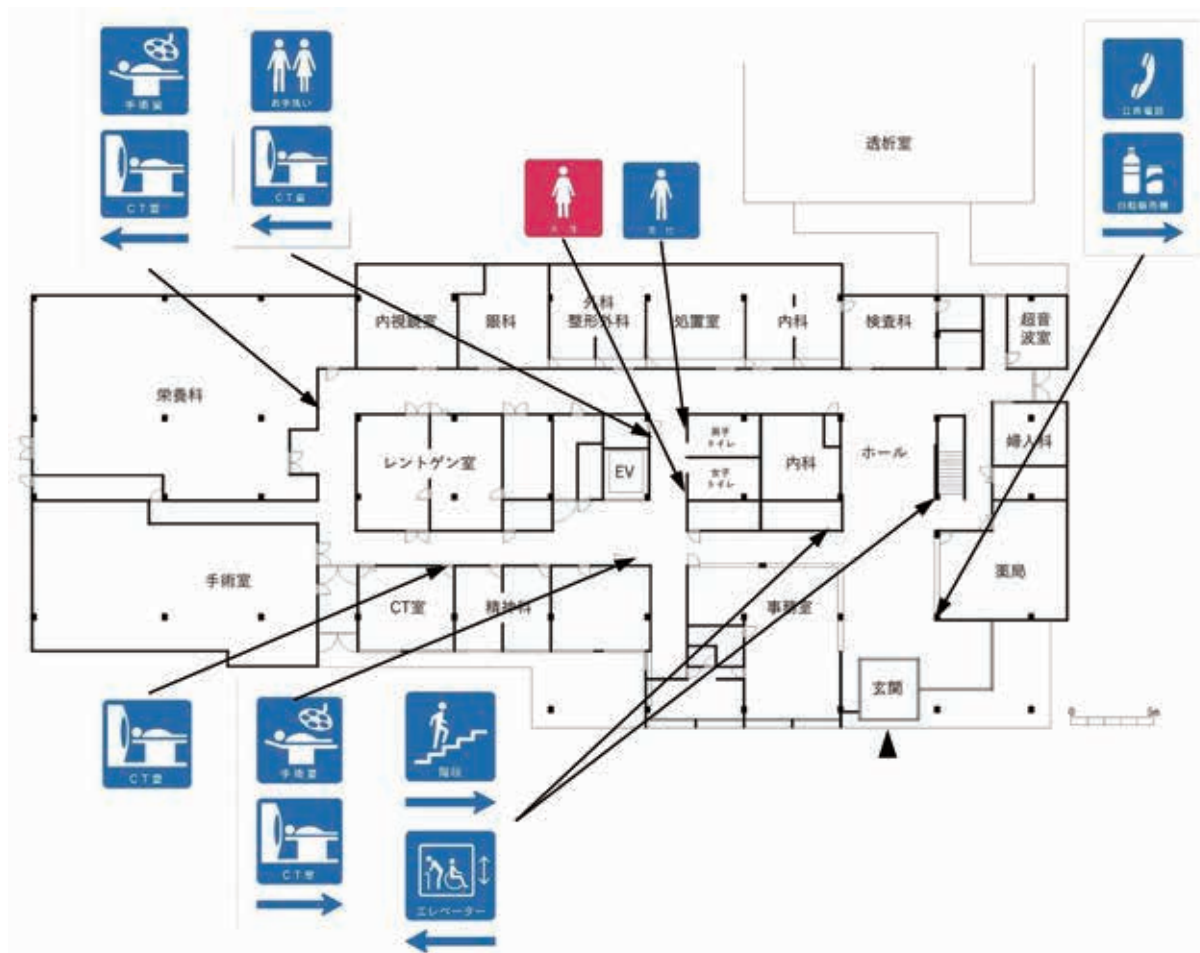


図3 リニューアル後のピクトグラムの配置

おり、加工、更新が容易であるというメリットがある。また、病院の築年数や予算に合わせ、変化に対応したフレキシブルさを重視して、取り外しが自由なマグネットの使用を提案した。

## 6. まとめ

以上、A病院におけるピクトグラムの改善提案

を紹介した。

計画、施工までのほぼ全過程に関与できた事例であり、病院側のご協力があり、病院側と筆者らの役割を明確にすることができたため、ひとまずは成功裏に終えることができた。今後、詳細なアンケート、インタビューを行うことで提案を検証し、研究を深化させることが課題である。

## 文 献

- 1) 木村麻奈美, 中野明: 病院外来部における患者向け情報のサイン計画指針—病院外来部のウェイファインディング・デザインに関する研究: その4—。日本建築学会大会学術講演梗概集, E-1分冊, 461-462, 2008.
- 2) 金恩妃, 木村浩, 李昇姫: 病院における安心感を与える誘導サインに関する研究 (1) —筑波メディカルセンター病院の誘導サイン改善計画—。日本デザイン学会研究発表大会概要集, 日本デザイン学会第61回研究発表大会, 100, 2014.
- 3) 坂田岳彦, 宮島朝子, 見寺貞子, 瀬能徹, 小山美代: 新しい「病院のサインデザイン」の提案—リハビリテーション病棟における試み—。健康科学 京都大学医学部保健学科紀要, 3, 63-66, 2006.
- 4) 西川潔: サイン計画デザインマニュアル—医療・福祉施設を事例として—。学芸出版社, 京都, 2002.

(平成30年1月17日受理)

## Report on an Improvement Example of the Pictograms of a Hospital Outpatient Department

Yoshikata GODA

(Accepted Jan. 17, 2018)

Key words : hospital, pictogram, outpatient department

### Abstract

This is a report of one case study on the process of making pictogram improvement suggestions for an outpatient department of a hospital. The pictograms used a blue color providing good visibility. After surveying the hospital, we decided on pictograms slightly smaller than standard pictograms (250mm) and at a height of 1150mm. We focused on flexibility by using cutting sheets and magnets.

Correspondence to : Yoshikata GODA

Department of Design for Medical and Health Care  
Faculty of Health and Welfare Services Administration  
Kawasaki University of Medical Welfare  
Kurashiki, 701-0193, Japan  
E-mail : [goda.y@mw.kawasaki-m.ac.jp](mailto:goda.y@mw.kawasaki-m.ac.jp)

(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.27, No.2, 2018 477 – 481)

